

再評価【番号1】

都市計画道路 東吉野町北沖洲線

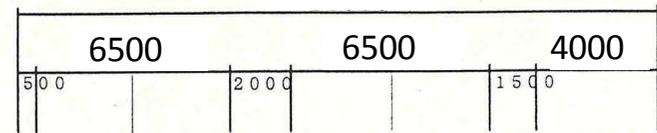
1. 事業概要

平面図



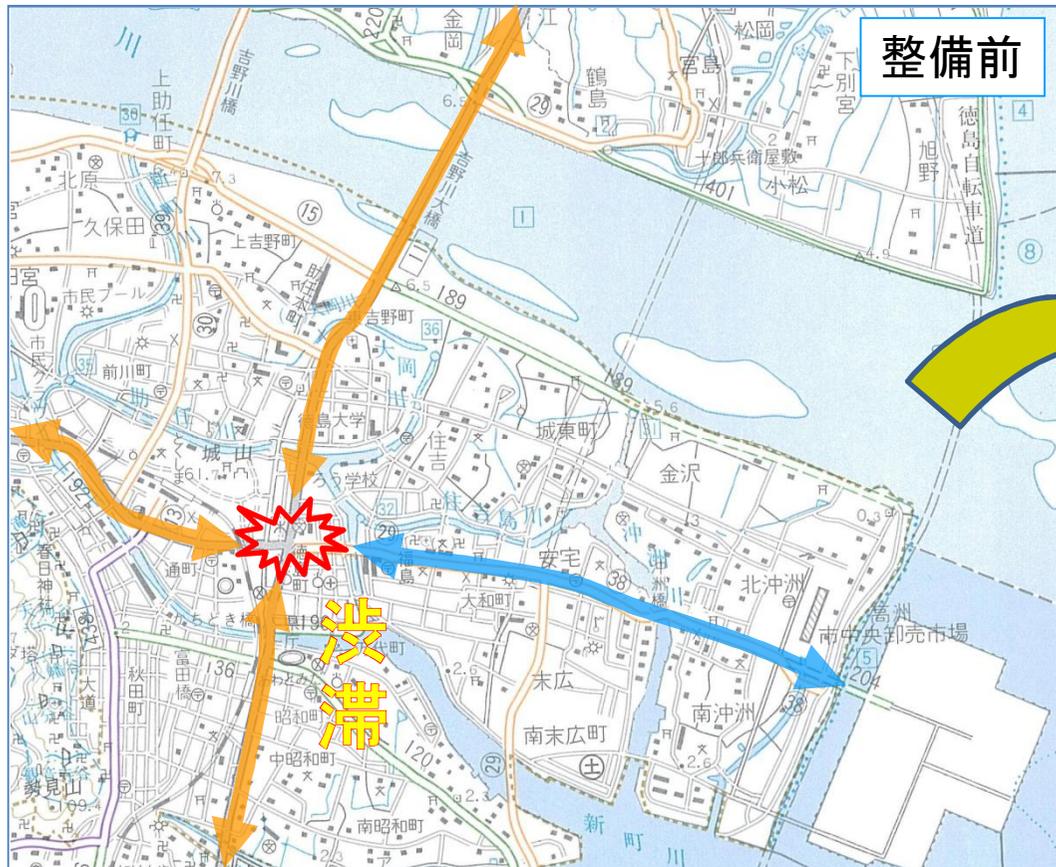
標準断面図

21000

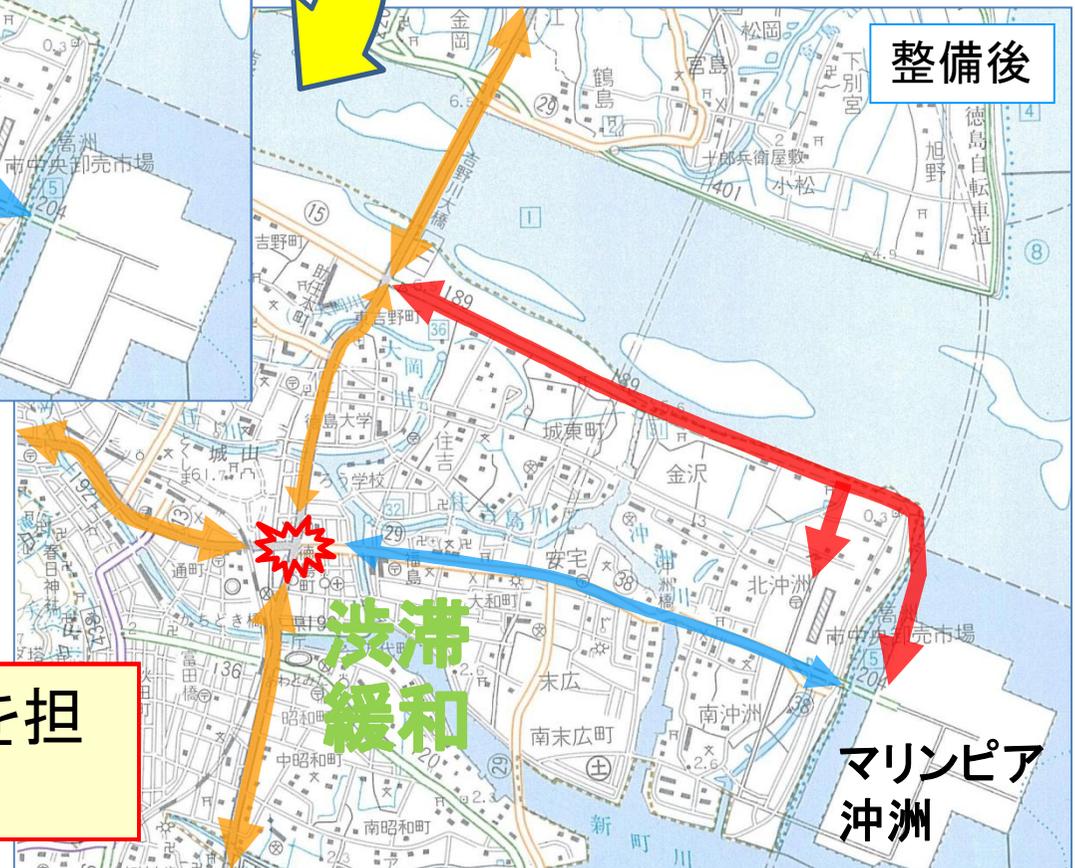


延長 L = 2.9km
幅員 W = 21m
事業費 C = 132億円

2. 道路交通上の課題



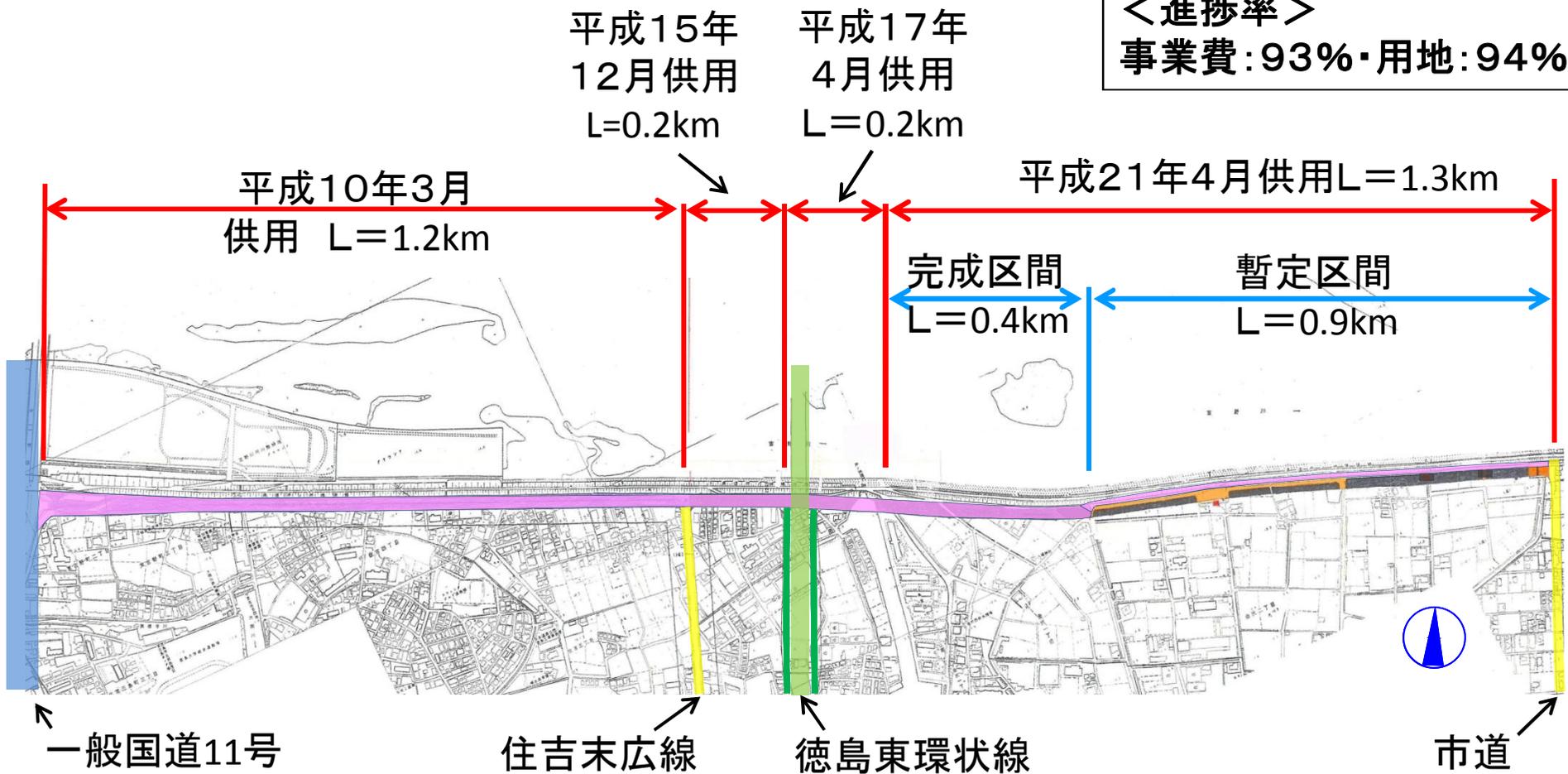
一般国道11号, 55号,
192号の交差点で慢性
的な渋滞



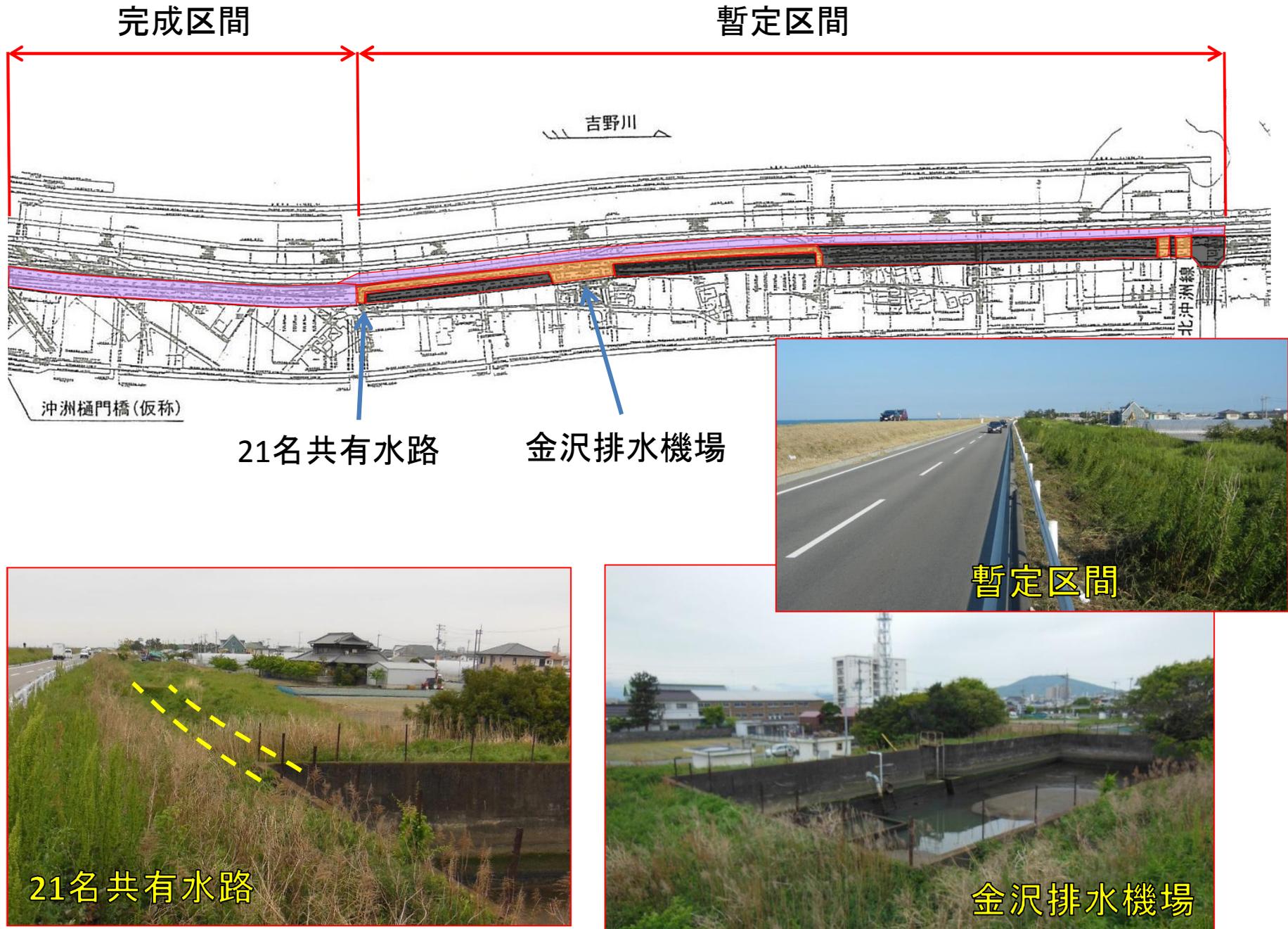
北沖洲方面への交通を担
うことで渋滞を緩和

3. 事業の進捗状況(全体)

<進捗率>
事業費:93%・用地:94%



3. 事業の進捗状況(暫定区間)



4. 事業評価結果

貨幣換算可能な整備効果

- ・ 走行時間短縮便益
 - ・ 走行経費減少便益
 - ・ 交通事故減少便益
- 計 **275.6億円**
(現在価値化後)



その他の便益

医療

計 **81.5億円**
(現在価値化後)

- ・ 救命率の向上効果 17.9億円

環境

- ・ 大気汚染や温暖化防止効果 4.8億円
- ・ 騒音低減効果 58.8億円

※費用C=209.3億円 (現在価値化後)

$$B/C = 1.3$$

(参考) その他の便益を含む $B/C = 1.7$

貨幣価値に表れない整備効果

防災・減災

- 災害時の復旧・支援の強化
⇒ 活動拠点(マリンピア沖洲・吉野川運動広場)間のアクセス道
- 緊急輸送道路の補完
⇒ 緊急輸送道路(沖ノ洲徳島本町線)の代替路線

安全・安心

- 大型車交通を郊外に転換
⇒ 市街地の大型車交通を転換し、歩行者・自転車の安全性が向上

産業振興

- 物流の効率化
⇒ マリンピア沖洲・中央卸売市場へのアクセス性向上

5. 道路整備による多様な効果①【貨幣価値換算可能な整備効果】

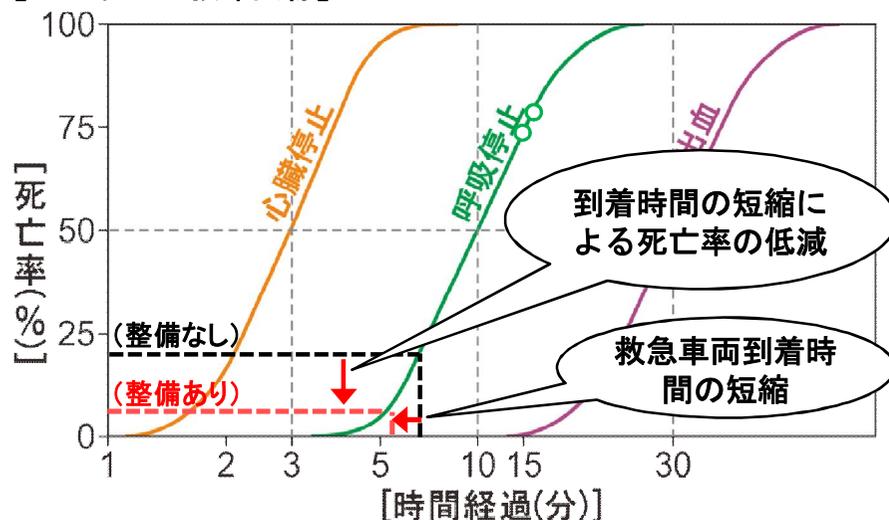
◎その他の便益

医療

■ 救急医療へのアクセス向上

- ・ 徳島市東消防署から集落までの**救急車両到達時間が短縮**されることにより、**救命率の向上**が見込まれる

【カーラーの救命曲線】



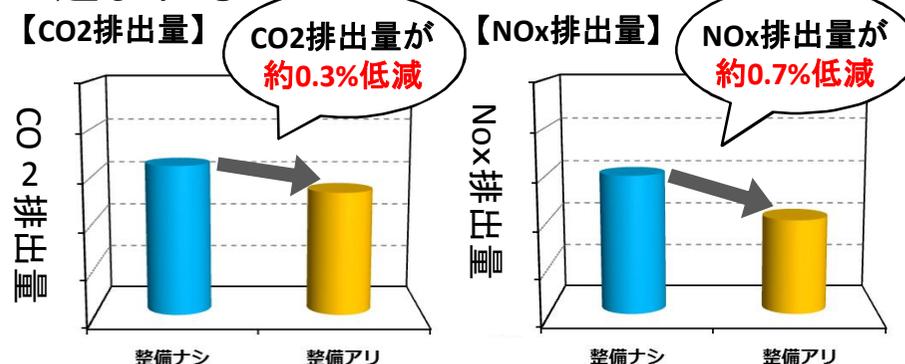
- ・ 呼吸停止後の死亡率が**約16%低減**

救命率の向上効果 : 17.9億円

環境

■ 地球環境の保全効果

- ・ **CO₂、NOxの排出量が抑制**されることにより、**大気汚染・温暖化防止効果**が見込まれる



大気汚染・温暖化防止効果: 4.8億円

■ 騒音低減効果

- ・ 現道の通過交通がバイパスに転換することにより、**現道沿いの騒音の低減効果**が見込まれる。

騒音低減効果: 58.8億円

5. 道路整備による多様な効果②【貨幣価値に表れない整備効果】

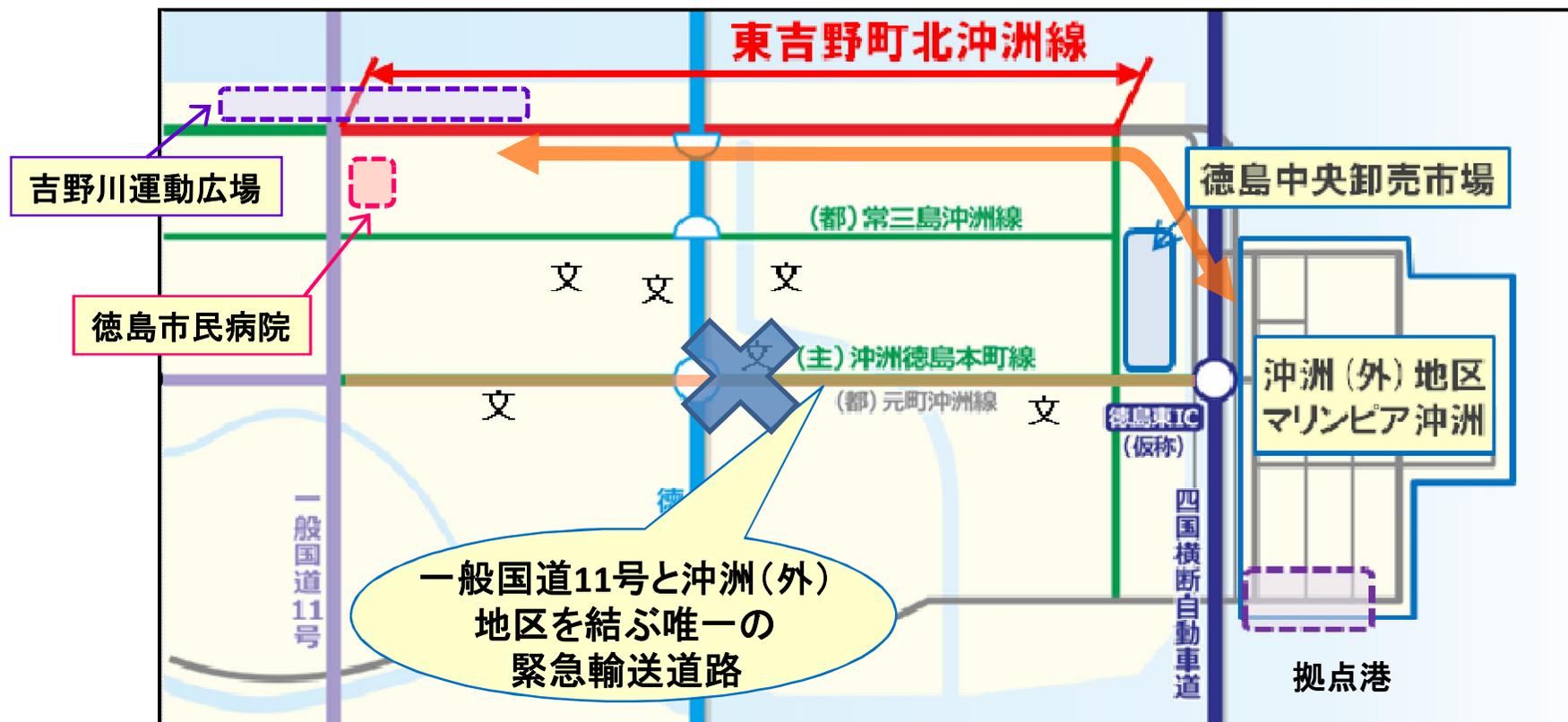
【防災・減災】災害に強い道路ネットワークの構築

①災害時の復旧・支援の強化

活動拠点（候補地）間や拠点病院・拠点港とのアクセス道

②緊急輸送道路の補完

緊急避難道路（沖ノ洲徳島本町線）の代替路線（多重性）



5. 道路整備による多様な効果③【貨幣価値に表れない整備効果】

【安全・安心】市街地の安全性を向上

○大型車交通を郊外に転換

自転車利用者、歩行者の安全性が向上

【産業振興】物流の効率化

○アクセス性向上

物流の円滑化・地域経済の活性化



6. 事業評価結果

貨幣換算可能な整備効果

- ・ 走行時間短縮便益
 - ・ 走行経費減少便益
 - ・ 交通事故減少便益
- 計 **275.6億円**
(現在価値化後)



その他の便益

医療

計 **81.5億円**
(現在価値化後)

- ・ 救命率の向上効果 17.9億円

環境

- ・ 大気汚染や温暖化防止効果 4.8億円
- ・ 騒音低減効果 58.8億円

※費用C=209.3億円 (現在価値化後)

$$B/C = 1.3$$

(参考) その他の便益を含む $B/C = 1.7$

貨幣価値に表れない整備効果

防災・減災

- 災害時の復旧・支援の強化
⇒ 活動拠点(マリンプア沖洲・吉野川運動広場)間のアクセス道
- 緊急輸送道路の補完
⇒ 緊急輸送道路(沖ノ洲徳島本町線)の代替路線

安全・安心

- 大型車交通を郊外に転換
⇒ 市街地の大型車交通を転換し、歩行者・自転車の安全性が向上

産業振興

- 物流の効率化
⇒ マリンプア沖洲・中央卸売市場へのアクセス性向上

■ 今後の対応方針(案)

事業継続